

西遊記の孫悟空を祀るお寺 王爺寺 (ベトナム)

中国移民の祈りの場所として、同郷出身者の集会所として建立。

フォーのお店をオープンするというご夫婦の開眼供養を拝見させていただきました。

福建省特有の曲線が特徴的なオンボン寺



中国の同郷出身者の集会所「二府會館」



一ヶ月も燃え続ける大きなお線香

華人の祈りの場所として建立

最大の都市ホーチミンにチョロン地区と呼ばれるチャイナタウンがあります。日本だったら横浜や神戸のようなエリアです。18世紀の後半、多くの中国の人々がこのエリアに移住してきました。この華人によって建てられたのが、ここ「王爺寺（オンボン寺）」です。オンボンとは「この地の守り神」を意味し、華人の人々の祈りの場所となったのです。

そして、このお寺のもう一つの名前が「二府會館」。これは福建省にある泉州市と漳州市の出身者の同郷会館を意味します。お寺であり、二つの市の出身者の集会所も兼ねていたのです。そして、ここは今でも華人の方々に開放されていて、この日もご年配の女性が座り込んでくつろいでいました。

色とりどりで手首ほどの太いお線香からは、雲のように大量の煙が上がってます。また天井からぶら下がっている渦巻き型のお線香は三角の塔の形から、塔香と言うのですが、中には一ヶ月も燃え続けるものもあり、燃え尽きた時に願いがかなうそうです。

福建省特有の曲線があった瓦の屋根、参拝前に体

を清める大きな常香炉、いたるところに漢字が刻まれていて、ベトナムにいるのを忘れてしまうくらい中国一色のお寺です。

日本でもおなじみの西遊記の絵画

そして日本人が喜ぶのはこの絵画でしょう。おなじみの西遊記が描かれているのです。馬に乗る玄奘三蔵（三蔵法師）はインドからたくさんの経典や仏像を持ってきた中国唐代の僧侶。この旅にお供しているのが、猿の孫悟空、豚の猪八戒、そして沙悟浄は日本では河童ですが、ここでは沙悟浄は人間として描かれています。

玄奘三蔵は日本でも奈良の薬師寺にも祀られていて、中国や台湾のお寺にもよくあるのですが、こうしてお供まで描かれたたくさんの絵画があるお寺は珍しいです。

西遊記を掲げるお堂には、孫悟空が大きなおにぎりを持つ絵、勇ましく如意棒を構える絵があり、そしてガラスの厨子には孫悟空だけが祀られていました。孫悟空は道教の神であり、天宮でも騒動の絶えないやんちゃ者、愛嬌あるキャラクターは多くの仏教国で愛されているのでしょう。

店をオープンするご夫婦の開眼供養

元々は華人の祈りと集会所としてのお寺でしたが、今では厄除けや商売繁盛のご利益もあるようです。長いお線香を掲げて真剣にお参りをしていたご夫婦にお話を聞いてみました。

「私たちは今日からフォー（ベトナムの麺）のお店をオープンするのです。そこに新しい神棚を祀るので神様を持ってきました。この神様は私たちのお店から災いを払ってくれて、お客さんがたくさんを招いてくれる幸運の神様なのです。」

二人は厳重な木箱に、大きなお腹の神様と長いひげを蓄えた神様、それと龍の絵画を持ってきていました。そしてその二人の神様の目や手足、龍にも同様にお寺の職員が、サッ、サッ、サーッと、朱色を塗っていくのです。朱色は生命を意味し、神と龍が目目を覚ますと説明してくれました。日本のお寺だったら開眼供養のようなものでしょう。

とても丁寧で優しくそうなお夫婦、フォーのお店を開業するまでもたくさんのご苦勞もあったことでしょう。心から応援したくなるお二人でした。



日本でもおなじみの西遊記のご一行

西遊記のお堂で、厨子祀られるのは孫悟空



今日フォーの店をオープンするご夫婦



商売繁盛の神々に朱色を入れて開眼

齋藤 浩司（さいとう こうじ）

株式会社 B-WAY グループ 代表取締役

互助会から葬儀社を経て 2001 年同社創業。2002 年に葬送支援 NPO 法人を創設。2010 年には宗教法人を新規認証。CSR 活動として、

2007 年お寺で余ったお供え物を困窮世帯へ届けるフードバンクを設立。2013 年からは東南アジアの貧しい子ども達への生活・教育支援を開始し、現在はカンボジアのスラムで孤児院と幼稚園を運営。活動時に各国の聖地を訪れ、宗教家や現地の人々から文化を学んでいる。東京都新宿区出身。

